

ふくしま

再生 短信

2022/3/26~27 里山再生活動体験同行記 第3回 (最終回)

里山に百年の計あり

2022年3月27日午後、午前の里山ハイキング(前号記事で紹介)の後は菅野清さん(写真1)の山へ。高さ20メートルにも達するアカマツの大木の伐採は大変危険な作業である。基幹林業作業士の出番である。初めに木を倒す方向に「受け口」を作る(写真2)。次に反対側に「追い口」という切り込みが入ると(写真3)、伐倒が始る。



四十年まで数えたところ田尾さん「百年だ」。伐採は里山の大きな時間の流れを見せてくれた。伐採の後、学

標となる指標を提示。里山内の作業・20キロログの測定機材を担いで山野を歩く人・データ解析の応援(在宅可)求む! 講義のシメに登場したのは「椎茸農家・妖精の郷」の工藤義行さん(写真6)。里山再生百年二百年に生きる人、勇気をいただきました。講義終えて福島大農林サークル代表・那須琴美さん「放射能についてさらに学びます」、東大むら塾飯館

さんが「風」と土の家を訪れ(写真7)、森林の価値とは;森と生きるひとと社会の未来像」について再生の会の会員とフリーディスカッションが行われた。里山体験の最後に小原壮二さん「多くの皆さんの参加が大事」と結んだ。



す方向に「受け口」を作る(写真2)。次に反対側に「追い口」という切り込みが入ると(写真3)、伐倒が始る。



び舎homeに戻り高橋正二さんの「里山林の放射能の現状と課題」についての講義(写真5)。佐須の里山林の測定結果から薪やキノコの原木を例に目



は、はからずも時を同じくして京都大学生物圏情報学教授大手信人

参加者全員で決意も新たにパチリ(写真8)。



本ワークショップは地球環境基金の助成を受けて開催されています。(文責&撮影・若林一平)

れ(写真4)、記者が



らな。前日26日には、

教授大手信人

